

あけましておめでとうございます。
皆さま方におかれましてはご健勝のことと思います。

2014年を振り返りますと日本全体としては、予期せぬ出来事が多かった年だと思っています。広島の大雪による一部地区の孤立、長野県白馬村での震度5強の地震、多くの死者が出た御嶽山の爆発、数十年前の阿蘇山の噴火など自然災害が多く発生した年だと感じました。

政治的には年末に衆議院の解散がありました。経済が好調で右肩上がりになっていたのですが、2014年4月に実施された消費税増税に伴い落ち込んだしまいました。これも2014年の予期せぬ出来事だったと思います。

2014年、本町での出来事を振り返りますと、美術館が活発に活動して

いました。篠塚聖哉さんという作家が

赤崎地区に民家を借りて半年以上滞在し、作品を制作する滞在型のアートプロジェクトの実施。また、浅井裕介さんは駅から美術館までの道に住民と一緒に地上絵を作成するプロジェクトを行っており、芸術・文化の薫る町づくりに寄与されています。また、赤崎水曜日郵便局では、全国から多数の手紙が寄せられており、津奈木町に行ってみいたいという人も増えています。これらの活動が身を結び、つなぎ美術館が2014年に『地域創造大賞総務大臣表彰』を受賞しました。その後、赤崎水曜日郵便局が『グッドデザイン賞』にも輝きました。これらの地道な活動が外部へのPRにもつながったと思います。

一方、今後の町政の課題としては、本町だけでなく、日本全国の地方が直面している問題でもある人口減少・少

子高齢化です。この問題を放置すると現在は、5000人ちよつとの人口ですが、20、30年後は3000人規模の町になってしまいます。この人口減少問題にかかわっている原因の一つとして『雇用』の問題があります。今後、国の施策として『地方創生』の下に「まち・ひと・しごと創生本部」を国が立ち上げました。東京の一極集中を抑えながら、地方の経済を良くして人口を増やすことが狙いとなっています。若い世代が子どもを産んで育てる環境が無いと人口減少は止められません。

本町の場合は、新幹線はすでに開通し、平成27年度には南九州西回り自動車道の津奈木インターが開通予定です。そうになると、以前は芦北水俣管内が通勤圏だったのが八代市まで広がるのが期待されます。津奈木に生活基盤を置きながら通勤でき、定住人口、流入人口（観光客）を増やすためにも高速道路の完成は大変ありがたいものとなります。

新幹線開通と芦北インターが開通した際には、芦北水俣に流入人口（観光客）が67・8%増加しています。（平成20年〜平成24年調べ）津奈木インターでも開通による経済効果が期待されます。そのために、つなぎ温泉四季彩のリニューアル、物産館の販売促進を行う必要があります。また、観光拠点として重盤岩や美術館を中心に「津奈木町に行ってみよう」と思われるような

対策を行っていきたいと考えています。また、本町に足りないものは、「これを買って行きたい」と思わせる民芸品や魅力ある食べ物です。これらを開発できれば町の経済効果に結びつくのではと考えています。

本町では20数年前から「多くの人が訪れてくれる町」「後世に残せる町づくり」「誇りを持って住める町」という3つの目標を掲げ町全体で進めてきました。その一つとして特に町民の皆さまが安全・安心に住める町を進めていきたいと思っています。介護・医療も充実し、災害が少なく犯罪のない町を目指します。そのためには、ハード面の工事も必要となり、土砂災害の工事や急傾斜地崩壊を未然に防ぐために民家近くの危険箇所の補強をしつかり行い、災害が起こる前に安心に住民に提供することが必要だと考えています。

また、町民の皆さまには、小さい町だからこそできる地域での助け合い、協力し合うコミュニティの充実した町を一緒に作っていかれたらと思っています。

これらは一気にもた、行政だけでなく、きめるものではありません。行政は一つ一つ色々な事象に対応しながら目的をもっと町づくりを進めて行こうと考えています。これからも、町民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

津奈木町長 西川 裕

Interview インタビュー

2014年話題となった団体にいる町民にインタビューしました。

丸岡地区体育部長
石井 陽一さん



2014年の町民体育祭は地区のみんなが手伝ってくれたおかげで野球で準優勝、競舟で初優勝することができました。丸岡地区は徐々にまとまってきており、以前と比べてみんなの行事に対するやる気も出てきたような気がします。しかし、まだまだ行事に出にくいと思っている地区住民の中にはいると思います。これからは、そんな人たちが参加しやすいような環境を作ってあげられたらと考えています。最近、11月に丸岡祭と題してハロウィンパーティーも行いました。地区の親睦を深めるためにもこういった地区行事を増やして行きたいです。

2015年は勝ち負けに関係なく選手も応援に来てくれる人もみんなで行事を楽しめることができたいと思います。そして、「丸岡地区に住みたい!」と思われるような地区にしていきたいです。これからも津奈木町をもっと盛り上げていきます!



津奈木中3年（桜戸）
濱田 菜々美さん

私たちは、それぞれの部活の中心連が6月末に終わってからすぐに駅伝の練習をはじめました。朝は7時15分には集合し練習を始めています。授業が終わってから練習し、約15km走る練習をほぼ毎日繰り返してきました。私は水俣・芦北郡市中学校駅伝大会では1区を走りました。しかし、大会当日は体調が悪く、練習の成果を発揮することができませんでした。でも、みんなががんばってくれたおかげで県大会出場が決まり本当に嬉しかったです。

県大会では、2区を走り、自分の力を出し切ることができました。チーム全体でもあらかじめ設定していた目標タイムより20秒も速く県で11位という結果を残せて大健闘だったと思います。1月11日に行われる三太郎駅伝では、津奈木中学校は2チーム出場します。女子の区間は1チーム2区間しかないのですが、まずはメンバーに入れるようがんばります。そして、大会新記録での優勝を目指します。

津奈木海龍
キャプテン 新立 誠さん



日本代表として、マカオに行くことが決まったのは大会の6ヶ月前。時間も無く焦っていました。また、みんな仕事をしながら海龍に所属しているので長期休暇を取れる人も限られ、主力メンバーでの出場はできませんでした。それでも、「決まったのなら全力でやろう」とメンバーは週3日の練習に気を張っていました。いざ、現地について練習を行うと、みんな闘志むき出しで勝敗よりも全力で漕ぐことに徹しました。最終レースではゴールした瞬間、これまで支えてくれた家族や遅くまで鐘を鳴らしても文句も言わず応援してくれる地域の方々、そして、チームメイトに感謝と言葉にならない想いがこみ上げ、気づいたらみんなで声を上げて、握手を交わし、号泣していました。アジア選手権を終えて世界の壁の高さを実感したと同時に、海龍はまだまだ伸び代があると感じました。

今回の経験はかけがえのない財産です。津奈木海龍も最近では有名になりつつあり、チームのみんなもその自覚や責任が芽生えてきています。父たちが結成した津奈木海龍をこれからも受け継ぎ、そして2015年はチームのレベルアップはもちろん、出場する大会すべて優勝できるようにこれからも練習をがんばります。

津奈木小4年（新川）
井上 美玖さん（写真右）

私は津奈木保育園のさくら太鼓で太鼓をしていて卒園してから太鼓がしたくて舞鶴太鼓に入りました。舞鶴太鼓の25周年公演は、とても迫力のある公演だったと思います。2015年は、もっと上手になりたいです。そして、篠笛にも挑戦したいです。

津奈木小4年（染竹）
松永 七海さん（写真中央）

私は、おじいちゃんが舞鶴太鼓の最初のメンバーで太鼓を叩いていて、それを見て太鼓を叩きたいと思い舞鶴太鼓に入りました。25周年の公演は、おじいちゃんとの頃の写真や大人の演奏も見れてとてもかっこよかったです。私もかっこよく、小さい子たちのお手本になれるようになります。



津奈木小4年（大泊）
新立 美織さん（写真左）

毎週、メンバーのみんなと一緒に太鼓を叩けることがとても楽しいです。25周年の公演は、緊張したけど、間違わずに全部叩けたので良かったです。来年はもっと新しい曲にどんどん挑戦していきたいです。